

盛岡となん支援学校

研究テーマ

つなぐ～個別最適な学びと協働的な学び～

1 主題設定の理由

目の前にいる子どもたちの実態から、一人一人の子どもが主語になる学校教育をめざすべく、これまで以上に多様性を尊重し、誰一人取り残さないよう、様々なこと、ものをつなぎ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す。

2 研究の目的

(1) 3年次計画共通の目的

児童生徒の多様化が進む中、「つなぐ」をキーワードにし、児童の実態に応じ、指導方法・教材の検討により、効果的な指導の実現、児童生徒の興味・関心に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む「個別最適な学び」とそこでつけた力を生かし、探究的な学習や体験活動を通じ、他者と関わりながら必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」の実現を目指す。

(2) 2年次の重点

多様な児童生徒の実態について、それらの資料を活用し、実態把握を行い、一人一人が自分のよさや可能性を認識できるような場の設定、ICTを活用した新たな教材や学習活動を積極的に取り入れながら、児童生徒が同じ空間で時間を共有することで、お互いの感性や考え方等にふれ、刺激し合うことなどができるような「協働的な学び」の構想を検討していきたい。

(3) 成果の発信

研究の成果は、校内ネットワークを通じて共有すると共に、外部団体の研究会において発表する。

3 研究内容および方法

(1) 全体研究会

3年次研究の全体構想や今次研究の構想について共通理解を図る。また教職員個々の研究実践の共有や全体研究の評価を行う。

(2) アンケート調査

職員のグループ編成のためのアンケート、児童生徒の変容についての調査等を行い、今次研究の成果や課題をまとめる。

(3) グループ研究会

① 準ずる教育課程

「小・中・高をつなぐ～夢の実現プロジェクト」

自己評価の高い実態から、ルーブリックの活用による評価で協働的な学びを目指す。

② 知的代替の教育課程

「指導と評価をつなぐキャリア教育」

児童生徒の実態から、指導形態の検討の仕方の確立で協働的な学びを目指す。

③ 自立活動を主とした教育課程

「実態把握と授業づくり～となん式システムづくり～」

学習到達度チェックリストを活用した教科の視点からの実態把握と目標設定及び授業実践をとおして、自立活動を主とする教育課程での協働的な学びを目指す。

④ 訪問教育部 つばさ（在宅、施設訪問）

「学びをつなぐ教材・教具」

教材・教具に焦点を当て、児童生徒の学びをつなぐと同時に協働的な学びを目指す。

⑤ 訪問教育部 てんくう（医大 児童精神科）

「復学へつながる支援のあり方～関係機関との連携をとおして～」

教員との協働的なふり返り～多面的な自己理解を目指す～

⑥ 訪問教育部 あおぞら（医大 小児科）

復学につながる支援のあり方～関係機関との連携をとおして～

学習室利用の実態から、段階に応じた支援で協働的な学びを目指す。

⑦ 寄宿舎

「協働的な活動をとおして考える自分たちの生活のしやすさ」

～主体的で対話的な学びや体験をとおして～

舎生同士の意見交換や発表などをとおして協働的な学びを目指す。

4 講演会

演 題：「授業づくりと教育課程の基礎」

講 師：福岡大学教授 徳永 豊 氏

期 日：令和4年8月2日(火)

参加者：80名

5 校内研修会及び授業研究会

講 師：岩手大学教授 柴垣 登 氏

期 日：令和4年7月22日(金)

参加者：89名